

A Newsletter of the Tokyo Branch of the Royal Scottish Country Dance Society

Editor: Tom Toriyama, 6-9-21, Ohzenji-nishi, Asao-ku, Kawasaki, 215-0017 Tel/Fax 044-988-7773

New Year Dance 2009

新春ダンス会 New Year Dance 2009 をつぎのとおり開催します。大勢の会員のご参加をお待ちしております。(会場確保にあたり、赤羽SCDC のみなさんにご苦勞をおかけしました。深く感謝しております)。

2009年1月12日(月・祝) 1.30-4.30

赤羽会館 (JR 赤羽駅東口3分)

¥1,000

音楽 小海弘子・村山由美子・青山るり

EH3 7AF	40/6
Mrs MacLeod	6/11
The Minister on the Loch	2008/2
The Happy Meeting	29/9
The Saltire Society Reel	L/28
Glasgow Lassies	34/3
Tribute to the Borders	L/31
Milton's Welcome	33/8
Back to Back	Glasspool/Itch
Anna Holden's Strathspey	42/2
Polharrow Burn	2007/3
The Roserath Cross	41/10
Culla Bay	41/2
Brechin Lassies	MMM
Miss Milligan's Strathspey	L/19
St Andrew's Fair	1982/2
Ex. The Reel of the R Scots	L/27

東京ランチ・クラス

(会場はそのつど変わります。ランチニュースをご参照、または担当にお問合わせください)

ビギナーズ・クラス

12月8日(月)・22日(月) 1.30-4.30

1月23日(月)

以降毎月第2・第4月曜日

千代田区総合体育館5F

講師 境雅子・佐藤仁美

¥800 (3ヶ月前納は¥4,000)

担当 岩瀬よし子 043-232-4174



前期ビギナーズ・クラスの面々

11月から5ヶ月のレッスン中

11月から新たな5ヶ月コースが始まっています。いまならまだ追いつくことができます。この機会にカントリー・ダンシングを楽しみたい方にぜひご参加をおすすめください。

東京ランチ 25周年記念 Weekend

2009年3月20日(金) - 22日(日)

箱根 ホテル花月園

定員 150名

来賓; アレスター・マクファジェン

(RSCDS 会長)

講師; アレックス&ケート・グレイ夫妻

(RSCDS チェアマン)

参加費用および概略日程は後日ご案内します■

インターメディエイト・クラス

12月1日(月) 1.30- 講師 神倉那智子

千代田区総合体育館5F

1月5日(月) 神倉那智子

2月2日(月) 長峯真弓

3月2日(月) 長峯真弓

¥600

担当 青木幸子 03-3207-7856

アドバンスト・クラス
12月6日(土) 6.20-8.45 講師 若松陽子
昌平童夢館(秋葉原)

1月10日(土) 五十嵐成子
2月7日(土) 小幡正明
3月7日(土) 林 浩子

¥600

担当 寺久保ヒロ子 03-3801-6139■

東京ブランチ 25周年記念品

委員会ではブランチ・ロゴ入りのTシャツ製作を考えています。首都圏の会員はブランチ・クラス参加などの機会を享受できますが、それ以外の会員はブランチレターをもらうだけで約6千円の会費に見合う特典がありません。ブランチ25周年を機に首都圏外の会員にも特典をさしあげたいとしてTシャツを作成、配布することにしました。2008年度予算にはこの費用が計上されておりませんが、繰越金を製作費にあてるつもりです。配布時期などはのちほどご案内します■

試験要領変わる

ティーチャー試験要領が変わり、5月に公表されました。おもな変更箇所は、

- ユニット1(筆記)は、ユニット2/3のあとでもよい。ただしユニット3(ティーチング)合格後、2年以内にユニット1に合格すること。
- ユニット2(ダンシング)の課題ダンス、The Isle, Frog in the Middle, Brechin Fancy, Milton's Welcome および Bridge of Nairn が削除され、かわりに The Westminster Reel, The Starry Eyed Lassie が入って、15ダンスからつぎの12ダンスになった。

Reels

Duke of Perth	Bk 1
The Gates of Edinburgh	Bk 15
General Stuart's Reel	Bk 10
The Westminster Reel	Bk 45

Jigs

Woo'd an' Married and A'	Bk 16
The Starry Eyed Lassie	Bk 23
Miss Hadden's Reel	Bk 23
Mrs Stewart's Jig	Bk 35

Strathspeys

Alltshellach	Bk 23
Miss Gibson's Strathspey	Lft
Mrs Hamilton of Wishaw	Bk 23
Village Reel	Bk 20

○ユニット3(ティーチング)でReels of Fourが指導対象でなくなった。

新要領にはその他筆記試験における注意事項、ティーチングプランやユニット4の書式が載っているので当事者・関係者はRSCDSウェブサイトから入手、理解しておくべきでしょう(→Teaching & Training → Examinations & Training → Teaching Certificates Parts 1 & 2のavailable hereで入手可)。

日本におけるユニット1の当面の試験日程はつぎのとおりです。受験を希望されるかたはセクレタリまでご連絡ください。

試験日	申込締切り
2009年2月14日(土)	2008.11.末
2009年4月11日(土)	2009.1.末■

運営委員会報告

7月5日

1. 各委員の役割分担(クラス担当など)を確認した。
2. 25周年記念 Weekend について概略を話しあった。来日する講師・来賓の日本における日程(奈良・京都観光を含む)を確認した。
3. New Year Dance 2009 のプログラムは会員のリクエストも入れてきめる。ミュージシャン育成のため演奏希望会員をつのり、アンサンブルでやりたい。そのまとめ役候補にアンサンブルのまとめをやってくれるか打診する。
4. Exam 委員から、トレーニング2010年4月末から5月初め、チューターはブルース・フレイザーとアン・ディックス、日本人トレーナーは未定、との報告あり。
5. ブランチ・ウェブサイトはアップデートを依頼する。
6. トム鳥山功労賞受賞祝賀会(11/23)のミュージシャン候補、MC 候補をきめ、都合をきく。受付は会員参画の意味からボランティアをつのる。

8月2日

1. 25周年記念 Weekend のミュージシャン候補をきめ、都合を問合せる。
2. New Year Dance 2009 は1月12日に会場確保できたとの報告あり、深謝する。演奏希望者によるアンサンブルは、まとめ役に辞退されたため、New Year Dance がブランチの看板行事であることおよび早めの選定を考え、急遽経験者に依頼しOKをえた。アンサンブルは今後の課題とする。

3. アンケート結果にもとづき、ブランチ・クラスの講師をきめた。
4. 鳥山功労賞受賞祝賀会(11/23)のミュージシャン、MCをきめ、委員作成のプログラム(案)を検討し、決定した。受付は3名からボランティアの申出であり、ありがたい。
5. 毎月発行の「クラスのお知らせ」を9月から「ブランチ・ニュース」に名称変更する。

9月6日

1. 25周年記念 Weekend の予算細部見積を次回委員会で検討する。花月園が狭いため、土曜午後を体育館サブアリーナでボール、同夜は花月園でケイリ(有志によるアンサンブルもできる)とする方法もある。今後さらに話し合っけてきめてゆく。
2. New Year Dance 2009 のダンス・プログラム、リクエストを取りこんで決定した。一部委員から、どうしても有志によるアンサンブルでやりたいとの意向があったが、前月の決定どおりとした。
3. 都 FD 連盟の SCD フェスティバルは同連盟がとりしきるので、ブランチは会員への PR に協力してほしいとのこと。

10月4日

1. 25周年記念 Weekend の予算細部見積を検討し、1人あたり参加費は4万円が算出された。参加者数を150人にとするとホテル全体を専有可となり、防犯上も好都合なので今後この人数で計画を進める。Weekend は最終日の昼食後解散であるが、ユニット2受験生のためにその午後を使いたいとの試験委員会申入れあり、了承した。
2. 25周年記念にロゴ入りのTシャツをつくることに決め、この計画を進めることにした。
2. 鳥山功労賞受賞祝賀会で、ミュージシャンは都合により早めに退出するため、終わりの数ダンスは録音音楽を使う。参加申込者は101名。式次第と時間割その他を決めた。
3. 11月の本部年次総会で現チェアマンのアイリーン・ベネットが退任し、新チェアマンにアレックス・グレイ、次期チェアマンにルース・ビーティ(グラスゴー・ブランチ)が就任する。その他の役員、委員選挙においては、東京ブランチに関係する候補者(アン・ディックス、マルカム・ブラウンなど)に郵便投票することとした。
4. 次号本部マガジンに英文アンケートが添付される予定である。会員の権利行使を助けるため日本語を付記し、かつブランチで回収した日本語回答は手分けして英訳して本部に返送することにした。

5. オーストラリアのウィンタースクール、ブランチとしてグループ・ツアー実施を考えることにした■

ブランチ運営委員

チェアマン	トム鳥山	044-988-7773
セクレタリ	西森典子	043-485-2528
	bon-accord24wood@kfy.biglobe.ne.jp	
トレジャラ	篠塚昌子	029-855-4728
メンバーシップ・セクレタリおよび		
ニュース担当	三木真理	0466-81-9961
	enoshima.thistle@extra.ocn.ne.jp	
委員	青木幸子	03-3207-7856
	岩瀬よし子	043-232-4174
	鈴木幸子	045-983-1010
	寺久保ヒロ子	03-3801-6139
ウェブサイト	吉澤敦子	029-841-0767
試験委員	吉澤敦子(日本試験委員長)	
	寺久保ヒロ子	

クラスで踊ったダンス

ビギナーズ・クラス 小山かおる・神倉那智子

7月14日

The Scots Bonnet	Bk 10
Lady Dumfries	MMM
Balmoral Strathspey	Bk 22

7月28日

The Maids of Currie	Children
Lady Lucy Ramsay	MMM
Lady Catherine Bruce's Reel	Gr Bk

8月11日

Largo Law	MMM
Moudiewort	Bk 11
Soldier's Joy	Bk 2

8月25日

Mrs Stewart's Jig	Bk 35
The Reverend John Macfarlane	Bk 37
The Braes of Tulliemont	Bk 7

9月8日

Balquidder Strathspey	Bk 24
Mrs MacLeod	Bk 6
Miss Welsh's Reel	Gr Bk

9月22日

Maxwell's Rant	Bk 18
The Starry Eyed Lassie	Bk 23
Miss Nancy Arnott	Bk 32

10月13日
 Scottish Reform Bk 3
 Sugar Candie Bk 26
 Duke of Perth Bk 1

10月27日 総復習
 Mrs Stewart's Jig Bk 35
 Jessie's Hornpipe Bk 8
 Balmoral Strathspey Bk 22
 Lady Catherine Bruce's Reel Gr Bk
 Duke of Perth Bk 1
 Miss Nancy Arnott Bk 32

インターミディエイト・クラス

7月7日 掛川純子
 The Dancers Wedding Bk 41
 The 51st Travellers Bk 44
 Gang the Same Gate Bk 36
 The Inimitable Derek 2006

8月4日 佐藤仁美
 Pretty Polly Bk 28
 Land o' Cakes Bk 29
 The Ladies of Dunse Bk 26
 Jenny dang the Weaver Bk 12

9月1日 佐藤仁美
 John Paul Jones Drewry-Bon Accord Bk
 Mrs Stewart's Jig Bk 35
 Sauchie Haugh Lft 29
 The Merry Uplanders Kellet-London 75th

10月6日 渡辺悦子
 The Rock and the Wee Pickle Bk 3
 Tow
 Hame Came our Gudeman Bk 30
 Mid Lothian Bk 7
 Neidpath Castle Bk 22

アドバンスト・クラス

7月5日 若松陽子/市川洋子
 The Seagull MMM
 The Auld Alliance Bk 23
 Sir Murdoch MacDonald's Bk 31
 Strathspey
 The Inverness Highland Ball
 Sargent-New Ruthven

8月2日 近藤幸子/市川洋子
 Willie with his Tartan Trews Bk 14
 Quadrille Country Dance MMM
 Bonnie Stronshiray Campbell-Glasgow Assy
 The Engine Room Wallace-Leaflet
 Allerton Lassies Jones-Liverpool 40th

9月6日 小山かおる/村上美枝子
 Royal Albert Country Dance Bk 34
 Kinfauns Castle Haynes-Carnforth 4
 Haughs o'Cromdale Bk 4

Willie's Wife Gray-Tweeddale 2

10月4日 小幡正明/市川洋子
 The New Rigged Ship Bk 9
 The Duran Ranger Bk 13
 Monadh Liath Drewry-Bankhead 6
 The Deuks dang ow'er my Daddie Bk 19
 The Crooket Horned Ewie Bk 14

Glasgow Highlanders の
 終わりがたは?

ーテクニック Q and Aー

RSCDS ウェブサイトの「Dance Query?」で会員からよせられたステップ、フォーメーション、ダンスの質問に答えています。今回そのなかから3つのダンスの Q and A を紹介します。

〈The Glasgow Highlanders〉

Q: 最終の 32 小節で両ダンシング・カップルはどのように終わるのか? スタート時と同じように down/up? それとも両カップルとも own sides で終わるのか?

A: Glasgow Highlanders は他の 8 回ダンスと同じく、own sides で 1,2,4,3 の順序で終わる。

最終の 32 小節で踊るのは 2nd and 4th カップル(以下'C'という)である。1C は 7 回目ですすでに own sides にもどっており (1W は 7 回目の 31-32 小節で左に動いて top に、1M は左肩をうしろに引いて)、3C も同様に own 4th place にいる。

8 回目の 24 小節の終わりで 2C と 4C は partners と向かいあい、男性同士 back to back で 2C は women's side 側、4C は men's side 側にいる。6 小節で reel of four を完了し、

●2W は左にカーブして 2W's place に up、
 ●4W は左にカーブして 3W's place に dance across、

●4M は 4W を追って 3M's place に入り、
 ●2M は L shoulder をすばやくうしろに引いて左にカーブしながら 2M's place に入る。

[以上は図入りで東京ブランチレター No.28 -1995.4.15- の p.8 に記載済み]

このダンスで重要なのは **reel of four** を 6 小節で行なうということである。男性を例にとれば、

- Out (1 小節)
- 右にまわり (1 小節)
- In してもう 1 人の男性と L shoulder で pass (1 小節)
- Out (1 小節)

○右にまわり (1小節)

○In してもう1人の男性と L shoulder で pass (1小節)

6小節の reel of four はまれであり、ほとんどの人はスピードが必要なことにびっくりする。とくに男性役をやっている女性は、ふだんの8小節 reel of four に慣れているため、他のダンサーと衝突することもある。

〈Mrs Hamilton of Wishaw〉

Unit 2 をめざす日本の受験生からよせられた質問である。

Q: 15-16 小節 [reels of three の終わり、ready for rondel のところ] の動きであるが、ポケット判 (1993) と RSCDS ビデオ、Book 23 オリジナル(1965)、受験用課題ダンス資料(2003)で記述がみんなちがう。どのように踊り、指導すべきなのか?

A: マニュアル見直しにおいて監修委員会は最新資料を参照し (本件の場合はポケット判)、あいまいなところはビデオを基準とすることとした。1C の動きかたはポケット判とビデオでは一致している (2C の手のとりかたは明確ではないが)。よってマニュアル第7章への注記記載は不要と考えたのである。

[ポケット判の記述で踊ってほしい、ということ]

Book 23 オリジナルは現行の SCD 用語体系とはちがっている。

〈Festival Interceltique〉

Q: コーラスの部分はサークルで動くのか? それとも Dunedin Festival Dance (Collins Pocket Reference) のようにフロアを自由に動くのか?

このダンスの作者、イアン・ブロックバンクの回答は、

A: このダンスをつくったとき、わたしは何組かのスクエア・セットを想定し、promenade でセット内の各カップルがみんな変わるのを意図していた。ロリアンでデモ・チームは合計5カップル、よってこれでデモせざるをえなかった。ついで大勢のフェスティバル参加者とサークルで踊ったが、この形で出版がなされたのである。ためしにスクエア・セットでやってほしい。Promenade の意図がわかると思う。Promenade の終わりで再びセットをつくる時、3カップルや5カップルのセット、あるいは2カップル、6カップルのセットができるかもしれないが、それでいいのだ■

2009 年 RSCDS Summer School

第1週 7月19日-7月26日

第2週 7月26日-8月2日

第3週 8月2日-8月9日

第4週 8月9日-8月16日

申込み用紙は12月からブランチ・セクレタリまたは RSCDS ウェブサイトから入手可能となります■

2009 年 Australian Winter School 《ブランチでグループ・ツアー》

7月12日(日)-7月18日(土)

ミュージシャン・コースはない

キアマ・テラス・モーター・ロッジ

(シドニーの南 120 km。海に面したリゾート地で、ロッジは4星のホテル)

2人1室でひとり A\$ 1,000

東京ブランチはグループ・ツアーを計画中です。ウィンタースクール後、シドニーとダーウィン観光、世界遺産カカドゥ国立公園で1泊、ダーウィンのノザン・テリトリー・ブランチで合同のソシャル・ダンシングというコースで、7月11日(土)-7月24日(金)の14日間、定員20人で開催する予定です。費用は合計34万円前後となる見込みですが、現在オーストラリア・ドルをはじめとする外貨レートが混乱していますので、落ち着いてからみなさんにご案内します。担当トム鳥山■

ロバート・バーンズ生誕 250 年

2009 年はスコットランドの国民的詩人、ロバート・バーンズ (1759-1796) の生誕 250 年にあたり、スコットランドのみならず、世界各地でさかんな催しが予定されています。バーンズの誕生日はご承知のとおり1月25日、生誕地アロウェイの地元、エア・ブランチは大々的な行事を催すだろうと計画をたずねました。

ところがエア・ブランチはことし2008年に75周年の節目をむかえ、ボールや記念ダンスブック、CD制作におわれてバーンズ記念祭は考える余裕がないとのこと■

ダンス会プログラムの組立てかたとMCの役割り (ビル・ソプル)

2008年4月5日、箱根におけるビル・ソプル氏の講演。日本語訳はクレメント篤子さんのご厚意により提供いただきました。

一般的なコメント

1. いいダンスプログラムを作るのは、思っているほど簡単ではない。
2. 委員会でみんながアイデアを持ちよって作るのは、しばしばアイデアが交錯しすぎて好ましくない・・・つまり1人で作成したほうがよい。
3. テーマを決めたプログラムは、ダンス選択の幅がせまくなり、一般的によいとはいえない。
4. 途中休憩は、2回より1回のほうがよい。せっかく盛り上がった雰囲気が休憩で途切れるため、演奏する側は、踊り手に再び雰囲気を取り戻させるために、さらに努力が必要となる。
5. Reel, Jig, Strathspey の同じリズムが2つ続かないようにする。前半の最後の曲と後半の最初の曲が、Jig-Jig または Reel-Reel と続く場合はかまわないが、プログラムを公表したあとで、休憩の順序を変更するとき問題となる可能性がある。
6. それぞれのダンスのチューンがどのようなタイプのものかを考慮する。大きなパーセントを、本来の力強い伝統的な音楽のセットとし、たとえば Slow Air あるいは歌のタイプの Strathspey は1ダンス程度にする。スコットランドの曲ではないツーステップ・タイプの Jig やポルカ、たとえば「Ian Powrie's Farewell to Auchterarder」とか「Shiftin' Bobbins」は、2ダンス以内にとどめる。
7. みんながウォークスルーをしなければならないような難しいプログラムは避ける。ウォークスルーを必要とするダンスを、最低限に抑える。ウォークスルーの場合でも、簡単なフォーメーションは、歩くのを省略することを私は勧める。
8. よい音楽で踊る基本的なフォーメーションで構成されたシンプルなダンスは、複雑な踊りよりはるかに満足度が高い。とくに複雑な踊りで音楽がよくない場合はなおさらがっかりする。シンプルな踊りは、ダンサーたちのストレスを軽減することになるので、とくに経験の浅いダンサーにとっては、彼らの楽しみを増す助けになる。

9. プログラムの進行に従って、興奮度が盛り上がっていくように心がける。
10. 難しい踊りは、プログラムの中程に持ってくるのが最善である。みんなが疲れてくる後半の半分より前に持ってくることを勧める。
11. 生演奏で踊る場合 — まえもってミュージシャンに、演奏したくないチューンがあるかどうかを確認する。またミュージシャンがとくに演奏を好むダンスリストを聞いておくとよい。これらのダンスは、アンコールが出るような可能性が高い。
12. アンコールは、プログラムでとても重要な要素である。とくにミュージシャンにとっては。しかし全体としても、その興奮度と楽しみの上で重要である。少なくとも、前半で1つ、後半で2つはアンコールが出るようなダンスを取り入れる。常にプログラム最後は、アンコールにふさわしいダンスを心がける。つまり何を最後のダンスにするかがとても重要となる。
13. CD で踊る場合 — どの演奏(トラック)を使うか十分な注意が必要である。オリジナルの音楽を使うことが絶対に必須と考える必要はない。もしさらによい演奏があるならば(より生き生きとした演奏、代替曲の選択がよりよい・・・など)、そちらを使うことを考慮する。CD を使う場合でも、生演奏と同様に興奮度を高めて行く。

プログラム作成の概要

- Step 1: 与えられた時間から休憩を除いて、ダンスの数を割り出す。後半は、前半より少し短めにするとよい。(ウォークスルーをするなら一時間で5ダンス、簡潔なりキャップだけなら一時間に6ダンス)。
- Step 2. ダンスのテンポを入れる。Jig - Reel - Strathspey から始め、最後は、Strathspey - Jig - Reel とする。
前半の最後は、Jig / Reel または Reel / Jig とし、後半の始めは、Jig / Reel または Reel / Jig とする。
メドレーは、変化をつけるのにはいいが、テンポの切り替えがうまくできないミュージシャンもいるので、演奏者を考えて入れるかどうかをきめる必要がある。(メドレーを入れる場合は、Jig, Reel, Strathspey の順番を変える必要が生じるかもしれない)
- Step 3. プログラムの最後のダンス2つを選ぶ。
最後の2ダンスは、非常に重要である — ダンサーだけでなく、ミュージシャンが演奏するのにいいダンスである必要がある。できるなら伝統的な「本当の」Reel で終わるのが好

ましい。最後にサークルで終わると全員が参加できて盛り上がる。

もっとも重要なことは、みなが「もっと踊りたい!」と思うように、興奮度が最高潮に達して終わるのが好ましい。

Step 4. 最後の Strathspey を選ぶ。最後の Strathspey は、長く難しいもの(例: 'Moment of Truth')ではなく、この段階では 4 ないし 3 times through の短い Strathspey を使うとよい。

Step 5. 最初のダンスを選ぶ。よく知られた、全員が踊れる簡単な踊りを選ぶべきである。ミュージシャンにとっても、「ウォーミング・アップ」となるような、シンプルなチューンのセットとすべきである。

Step 6. 前半の最後のダンスと、後半の最初のダンスを選ぶ — 難しくないポピュラーな

ダンスを選ぶべきである。

Step 7. 残りのダンスを選ぶ (J/R/S/J/R/S . . . : 最後を適切に終わるために、順番を修正する必要あり)

ダンスのレベルは、参加しているダンサー全員に、十分なチャレンジを提供すべきだし、同時に経験の少ないダンサーにも満足できる数のシンプルなダンスを含むべきである。スクエア・セットのダンスは、変化を与える。表を使って、バラエティに富んだフィギュアを入れる — つまり同じフォーメーションを繰り返さないように配列する(ダイヤグラムや略語を使ってチェックする)。典型的な各種のフォーメーションを含むように心がける。

3 時間から 3 時間半のダンス会 (パーティ) のプログラム作成表の一例
(アンコールの時間を考慮した上での時間配分である)

順	曲種	ダンス名	長さ	Book	Fig 1-8		Fig 25-32	音楽形式
1	J							
2	R							
3	S							
4	J							
5	R							
6	S							
7	J							
8	S							
9	R							
		休憩						
10	R							
11	J							
12	S							
13	R							
14	S		4x32 3x32 or 1 回通し					
15	J							
16	R							
		EXTRAS						
	J							
	R							
	S							

MC (Master of Ceremonies: 司会) の役割り

一般的なコメント

1. MC の役割りは、見た目ほど簡単ではない。その役目には、最適任者を選ぶべきである — MC にふさわしい人物の選択は非常に重

要である (長いこと委員をしているとか、ダンス経歴が長いという理由で選ぶべきではない)。

2. ダンス会 (パーティ) を通して、MC を変えない。
3. MC は、あまり踊れない覚悟が必要である。踊るときはトップに近いところで踊るようにする。

4. もし他の人がリキャップをする場合（ゲストにリキャップを依頼する場合）、明確で簡略であるべき。
5. 正しいマイクの使い方を研究せよ。スピーカーから流れる自分の声を聞け。とくに「パ・ピ・プ・ペ・ポ」、「ス」などに注意せよ。口からのマイクの距離と角度を調節することにより、もっとも聞きやすい音響を見つけよ。女性の声と男性の声で、サウンド・ミキシング装置のコントロールが変わるので、その加減も必要である。大きな会場で、エコーがある場合には、ゆっくり、はっきり、しゃべるとよい。次の文節をしゃべる前に、エコーが消えるのを待つ。
6. MC をするのに、しばしば緊張する人がいる。緊張すると、しゃべり方が早くなりがちであるので、気をつける必要あり。
7. サウンドシステムを使った場合、低い声の方が聞きやすい。とくに広い会場だとなおさらである。
8. 演奏が行われているときには、確実にマイクのスイッチが切られているかを確認する。

MC の役割

1. MC のおもな仕事は、その会が時間どおり、スムーズに進行するよう運ぶことである。主催者に多少の時間的な柔軟性があるかどうかを確認しておく。最後の謝辞や「蛍の光」（を歌う場合）の時間の余裕をみておく。
2. ミュージシャンの必要とするものがすべてそろっているかどうかを確認する。ステージに飲み物を用意する（暑い日にはとくに）ことを忘れるな。ミュージシャンには、集中を要する仕事が控えているので、できるだけ不要な負担やストレスを除くようにする。
3. それぞれの踊りが始まる前に、セットが部屋全体、均等に作られているよう調整する。ラインの数を調整せよ。
4. 次のダンスを紹介するにあたり、ミュージシャンにその踊りの 8 小節を演奏してもらうのはいい方法である。またそれを合図にセットを作る。早々とセットを作るのは、ミュージシャンに不必要なプレッシャーを与えることになるので、MC がそうならないよう注意をする。ミュージシャンには、息を入れる時間と楽譜をそろえる時間が必要である。
5. トップの男性に、そのラインの番号をカウントしてもらおう。それは素早く、効率的であるべき。カウントは 1 人でしたほうがよい。MC は、すばやく「何カップル必要か」1 人からの明確なサインが必要であり、全部のラインがそろったことを知る必要があるからである。・・・セットをそろえることに、時

ビル・クレメントさんに MBE



エリザベス女王から MBE 大英帝国勲章を授与されるビル・クレメントさん（2008. 7. 1）

- 間の浪費を避ける。
6. もしミュージシャンから頼まれたら、サウンドのバランスを確認する。
 7. ダンスで、32 小節以外のものや、8 回通しのものでない場合、ミュージシャンが承知しているかどうかを確認する。
 8. すべてのリキャップは、できるだけ簡潔にする。長いリキャップやウォークスルーは、ダンス会(パーティ)のペースがだれる。ミュージシャンにとっても、長々と待たされるのは疲れる。ダンス会は、ダンスを教える場ではない。もしウォークスルーが必要な場合は、1 カップルのみとすべきである。簡単なフォーメーション、たとえば Rights and lefts とか Hands round and back のようなものは、歩く必要はない。
 9. MC は、できるだけ会場のトップにいるべき。必要に応じてダンスの最後に「アンコール」の合図をミュージシャンにすぐに与えられるよう、MC はステージの上かミュージシャンの近くにいななければならない。「アンコール」は、すばやく、スムーズにする必要がある。「アンコール」は、その会が大きな成功につながる重要な要素である。
 10. ミュージシャンへの「感謝」をうまいタイミングで入れる。ダンサーが MC に注目しているときがよい。一般的に、ポピュラーなよいダンスのあとが好ましい。時にはアンコールの前でもよい。

CD を使う場合の MC への追加事項

各ダンスごとに、もっともよい音響が提供できるように、スピードと音量、低音、高音の調整をする。それぞれの CD プレイヤーが少しずつ違うし、すべての CD の録音が違うからである。スピーカーから流れる音を、会場のトップの位置だけでなく、ボトムの位置からもチェックする。通常、サウンドの設定には妥協が必要である。音楽のスピードがよいかどうか、事前に実際に何小節か踊って確認するとよい■

SCD むかしといま (ジェフリー・セリング)



セシリー夫人とジェフリー・セリング

TACの50周年にあたり、思い出にふけている。念のためにいっておくが、わたしは50年間ずっと踊ってきたわけではない。けれども39年間ダンシングとティーチングをつづけており、ダンスの考えかたおよびダンシング自体がどのように変わったか、語る資格は十分にあると思う。わたしは、ソサエティの組織変更、控えめなブリティンから派手なマガジンへの切りかえ、そしてプレリムとフルのティーチャー試験体系から5段階の新試験構造への変更のような制度上の変更は、それほど大きなものではなかったとみている。大きく変わったところはダンサーとブランチの経験の度合い、そしてそれらが出会う回数にあるのではなかろうか。

創立者と推進者

これからSCDをはじめめる人にとって、偶像となる人たちはもはやこの世にいない。ジーン・ミリガン、ボブ・ブラッキー、ジョージ・エマーソン、ジニー・カーマイケル…鬼籍簿はなおもつづいている。そういった中枢の人たちがいまの指導者やまとめ役よりも懸命に仕事をやったというわけではないが、かれらは未開地にくわを入れ、指針をきめた先駆者であった。

わたしがダンシングをはじめた当時、ミス・ミリガンはソサエティで大きな存在であり、熱意よりもその個性でサマースクールを席卷し、あふれるほどの元気さで世界をめぐる試験ツアーを指揮してSCDとソサエティに対する彼女なりのビジョンをひろめていた。彼女に会ったひとは彼女を忘れることができなかつたし、出会わなかつたひともミリガンの逸話やジョークを聞いていた。いまのダンサーの多くは、ミス・ミリガンとはだれなのかをほとんど知らない。彼女の名のついたストラスペイがあるけれども、いろいろなスコットランド女性の名前のなかの一つにすぎない。多くの人たちにとっ

て、ミス・ミリガンはレディ・メリー・メニーズやミス・メリー・ダグラスとおなじなのである。受験生は彼女の名前を知っているが、なぜかといえばマニュアルの冒頭部分に出てくるからであって、「ソサエティの創立者」というだけである。2007年のセント・アンドルーズでわたしは「試験場のミス・ミリガン」という寸劇をやったが、そこで何回もその感じをもった。数人の古くからのダンサーはわたしに「ホンモノそっくりだったよ」といい、1人は「恐ろしいくらいだった」といってくれたが、ほとんどのひとはわけがわからず見ていただけだった。パロディのあと、何人ものひとから「だれをやるうとしていたんですか？」ときかれた。日本人ダンサーたちにいたっては「老婦人の扮装だったのはなぜ？」というほどだった。

スコティッシュ・ダンシング運動を大きく前進させたジーン・ミリガンやボブ・ブラッキーのような初期のリーダーたちはもはやおらず、われわれはかれらのひたむきさや熱意をもっていない。創立者たちからうけついだ活力があるのはたしかだが、活力とかれらの熱狂性とはまったく別のものである。

音楽の進展

わたしがダンシングをはじめたとき、わがブランチはレコード(思い出せる?)をつかっていた。ティム・ライト・フィドル・オーケストラの78回転盤やジミー・ブレア・アコーディオン・バンドの45回転盤だった。わたしがはじめると前にジミー・シャンドがLP録音をだしはじめ、北アメリカでもスタン・ハミルトン・バンドのアルバムが有名である。ライブ音楽でやれるグループは数少なかつたし、選べるバンドも多くなかつた。スタン・ハミルトン、エド・ブライディ、アンガス・マッキノンといったところだった。のちにドン・バートレットがあらわれ、もとのスタンのメンバーもそれぞれ自分のバンドをもつようになった。ポビー・ブラウン、ポビー・フルー、エチエンヌ・オザラックがそれである。

1960年代の後半はでかいアコーディオン・サウンドが非常に好まれ、フィドルはそれほどではなかつた。スコットランドに目を転じるとケルト・スタイルのフィドルリングが復活のきざしをみせており、スコティッシュ・カントリー・ダンシングの世界でもフィドル復興がはじまっていた。フィドル・オーケストラが復活し、アレスター・フレイザー、ロン・ゴネラほかの傑出したフィドラーがあらわれた。スコットランドのダンス・シーンではいまでもアコーディ

オンが幅をきかせているが、そういったバンドでもフィドルをみることができ（ニール・コーブランド・バンドにおけるモー・ラザフォードの存在がそのあかしである）、スコティッシュ・カントリー・ダンシングにおけるフィドルへの関心はますます高まっている。キース・スミスの人気はこのトレンドの証左となっている。

ここ北アメリカでは東西両方でフィドル合宿が行なわれており、スコティッシュ・カントリー・ダンス・バンドでも数多くの優秀なフィドラーがいる。いまでは北米大陸にフィドルとアコーディオンの両方を目玉とする（さらにビオラ、チェロなど）ダンス・バンドがたくさんあり、こんなにもというほどのすばらしいミュージシャン連中がいる。すばらしいライブ音楽つきのボールをもよおしているグループは無数にある。

もうひとつの側面はローカル・ミュージシャンの成長である。40年前、スタン・ハミルトンあるいはドン・パートレットをよぶことができなかったなら、われわれはレコードでやるほかなかった。いま、多くのグループはローカル・ミュージシャンによる自前のバンドをもち、かれらミュージシャンは高度なレベルと音楽性を発揮している。音楽ワークショップは各ブランチの定例行事となり、主要ウィークエンドはダンス・クラスにくわえ、音楽ワークショップを日程に入れている。

ライブ音楽は北アメリカで健在である！

ダンスの激増

スコティッシュ・ダンス・シーンでおこった最大の変化はダンスそのものであろう。40年前、われわれが踊っていたのはほとんどソサエティのダンスで、それで十分楽しんでいた。Mairi's Wedding, The White Heather Jig, The New Scotland Strathspeyのような非RSCDSダンスはプログラム上、スパイスとしてとりいれていた。それがいまでは、キース・ネピアによれば13,000をこえるダンスがかれのデータベースにあり、しかもかぎられた地域だけでプリントされたダンスはこれに含まれていないという。ヒュー・フォス、ジョン・ドゥルーリ、ロイ・ゴールドリングのような多作家でなくとも、だれもが、ビギナーズでさえダンスをつくらうと思っている。ダンスはいまやちょっとのきっかけでつくられている。すなわち、子犬が生まれた、赤ちゃんができた、仕事がかわった、新しい料理法を考えた、等々である。その新作は指導され、踊られることを希望し期待している。ミス・ミリガンはかつてサマースクールで、古

くからあるダンスが、新しくつくられ、しかもしばしば複雑なダンスの海にのみこまれることを、声を大にして心配していた。その意味で彼女は予言者であった。

ダンスの激増には好悪の両面がある。よい面は新人がフォーメーション、プログレッションを勉強するのにとっつきやすさがあること、そして好奇心を満足させる材料にこと欠かないということである。そのなかには、ハッとする巧妙さがあったり、たいへんおもしろいダンスがある。J.B.Milneにみられるような、「と同時に」というフォーメーションのたぐいであり、Pelorous Jackのドルフィン・リールやバリー・プリディ作の魅力的なトゥルビヨン（Sands of Morar）にはわくわくさせられる。ジョン・ドゥルーリは3Cと4Cがクロスしてスタートし、セット全体のプログレッションもその構成で行なう（Mary Hamilton その他）、というダンスを考案した。

このような創造と多産のラッシュはひとつの代償をまねいている。「みんなが知っているダンス」という共通の基盤を分かちあうことはもうできない。そしてダンス・イベントに参加するとき、まえもって勉強しなければならない。これがなんと多くなったことか。「ほとんど知っているよ」というプログラム内容はどんどん少なくなっている。時間と予習という大きな負担なしでよその場所にでかけることは容易でなくなっている。そのうえ、よく知られたダンスは、さらに複雑なダンスにとって代わられようとしている。

2年前、スコットランド旅行からもどった友人のティーチャーはわたしに1枚のプログラムを見せてくれたが、彼女は「まったくわからないダンスが1つある」。わたしはざっと目をとおしたが、わかったのは2ダンスだけだった。彼女は会場入口で受付係からこういわれたそうだ。「ここでは簡易解説シートもリカップもありません」彼女は悲しい思いで、すごすごと引きさがったという。

ダンスにおけるスタイル、フィーリングもまたかわった。新しい題目はパターンとフローであるように思われる。新しいダンスはダンサーのインおよびアウトをブレンドし、「場所に行きつく」という終わりのない流れのなかにある。いくらかテクニックを要するけれども、ポピュラーなBees of Maggicknockaterを例にとってみよう。1Cはあちらこちらで手を取りながらセットを動きまわる。「わたしを間違えないで」というわけで、とてもおもしろいし、わたしは

いつも楽しく踊っている。とはいえ、The Cadgers in the Canongate とは大きな違いがある。Cadgers ではすべてフレージングを調整しながら動かなければならない。このダンスを踊るには真のダンシング・スキル（技能）を要する。移動、小節ごとの区切りがわかり、ペースと強弱の調整ができなければならない。こんにち、ダンサーの多くはダンシングの本質については関心がなく、パターンとフローの型のおもしろさを好んでいる。

Pas de Basque はダンス・フロアの支柱の1本であった。われわれは大きな活力と楽しさをもって Hamilton House、Lord Roslyn's Fancy そして Petronella を踊ることに慣れているが、いまのダンサーたちはセッティングの多いダンスを敬遠している。Double trianglesあるいはSet to corners and partner の入っているダンスになるとイスに腰をおろしてしまうダンサーもいる。

古くからあるトラディショナル・ダンスをいつも踊り、楽しむという共同体を維持できず、わたしは地方のダンス界とソサエティが、たがいにますます分離するのではないかと恐れている。アメリカン・スクエア・ダンシングは難解で地域に特化したものになっているが、スコティッシュ・カントリー・ダンシングもこの方向にあるのではないか。ひとは1つのクラブに属する必要があり、ダンス・レパートリが特有化しているため、べつのクラブに移るのがむずかしくなっている。

服装の変化

スコティッシュ・カントリー・ダンサーの通例のドレス（女性のスカートとドレス、男性の装飾服、ホーズとキルト）は40年間それほどの変化はない。が、ソサエティの服装慣行に無関心なひとたちがどんどんふえている。40年前、クラスやダンス会でスラックス姿の女性に出会うとは考えたこともなかった。いまではどこでも、である。おどろくことに男もそうである。大きなボールを除いて、大多数の男性はキルトを着用しないのだ。わたしは、気どらないクラスにおいても、男はキルトを着てこそよりスコティッシュらしいダンシングを感じさせると思うのである。だがこれは少数派の意見になるかもしれない。スラックスでないほうがテクニックを披露するのによいと思うのだが。

ボールではすべての服装が見られる。フォーマル・ウェアできれいにドレスアップしているひとと同様に、ジーンズ、Tシャツ、短パンなどもある。40年前、ひとはソサエティの慣例

に沿うことを欲した（あるいはそれから外れることを恐れた）が、いまではみずからが欲するものを着るようになった。ボールにおいても格式ばらないこと、これがますますふつうになっているように思える。

ダンス・フロアにおける男女の力関係

終章近くになった。ほんとうの進歩について語ろうと思う。かつてパートナーを選ぶのは「男の世界」であった。40年前、誘うのは男であり、誘われなかった女性は女性同士でカップルをつくった。これは、女性は男性との踊りを好み、女性が女性をパートナーにするのはやむをえないときのみという共通認識があったと思う（必ずしも正確ではないが）。

いまでは、ほとんどの女性は気兼ねなくパートナーをきめている。70年代、このようなことは「女性の選択」として、はしたないとされていた。恥ずべきであるというひともいたのである（なぜおれは3人しかパートナーを選べなかったんだ？）。しかしそれ（女性が申込むこと）はまた、男性にたいしてパートナーになってほしいとおずおずと申込む女性にとって、有益なとりあえずの手段として用いられていたのである。ひかえめ、あるいは人見知りする女性にたいする系統立った体験方法であった。いま、若い女性はほとんど自分で自分のパートナーをみつけている。人生経験を積んだ女性でそうするひともいるが、男性に申込むことをためらうひともまだいる。「男の世界」は死に絶えている。

北アメリカのグループのほとんどは、明文化して、だれもが「だれもが選べる」方式でやっている。だれもが自由にだれかに申込めるということである。あるとき、「パートナーがいない？ きみもか！」という2人の男性がいた。2人は女性同士でカップルになっているところに行き、男女のカップルになろうと思った。現在、このようなやりかたは失礼なことと受けとめられている。女性が友だちの女性を誘うのは男性を見つけられなかったのではなく、その女性と踊りたかったからなのである。2人の男性が女性-女性カップルを裂こうとしても、「おあいにくさま」あるいは「パートナーがいるのよ」が返ってくるだけである。わたしはしよげかえった男性を何人も見ている。男たちよ、ダンス・プログラムを勉強しよう！ 女性連中の多くはパートナーを選んでいたのである。友だちの1人はいつている「たいてい男よりも女のほうが上手よ。わたしだって上手なダンサーと踊りたいわよ。おわり！」

ダンスのスピリット

ありがたいことに、変わらなかったものがある。スコティッシュ・カントリー・ダンシングからえられるスピリット、活力そして楽しさである。ときは移り、人びとの行動パターンは変わったが、輝くばかりの音楽にあわせて体を動かすこと、そしてやり終えるまでのチームワークによるすばらしいひとときと深い充実感は変わっていない。これは末永くつづくであろう！

ジェフリー・セリング Geoffrey Selling

は TACTalk の常連寄稿者で、ペンシルベニア州フィラデルフィアに住んでいる。かれは RSCDS デラウェアバリー・ブランチの会員であり、RSCDS エギザミナーでもある。

(“Dancing through the Years: Observing Changes Over Time” by Geoffrey Selling, from TACTalk 50th Anniversary Commemorative Issue, July 2008)■

新ブック紹介 (Tom Toriyama)

瑠璃色の詩^{しらべ} The Sound of Lapis Lazuli by Chiba Scottish Country Dance Group

瑠璃色の詩 The Sound of Lapis Lazuli (32S, 3S), A Senior Moment (32S, 3S), 母さんのストラスペイ Strathspey for My Dear Mother (32S, 3C), Thanks, Friends (80S, SQ), The Stream (40S, 4C), Vine Strathspey (32S, 3C), 遠き思い出のかほり Memories in the Old Days (32J, 3S), やんちゃ坊主の夏休み A Mischievousboy's Summer Holidays (32J, 3C), 楽しいひととき The Pleasant Time (32J, 4C), The Three Roads (40J, 3C), The Busy Bee Reel (32R, 3S), おばあちゃんとダンス Dance with Grandma (32R, 3C), Happy Dream (32R, 3S), Along the River ((32S+32R)x2, 4C), 思い出のスコットランド Memories of Scotland (32x2+24R, SQ)

千葉 SCD グループ、8 クラスのメンバーによるダンスブックである。まず日本語版がでて、そのあとに英語版が出版された。英語版にはダイヤグラムとほとんどのダンスに楽譜がついているが、日本語版にダイヤグラムはなく、楽譜は3ダンスのみである。視覚的に英語の解説文になじんでいるわたしには、英語版のほうがとりつきやすい。

英語版についていくらか直言したい。このようなりっぱな本には英文文書としてのきまりがある。多くの例外はあるが、略号・短縮形は使わない、10までの数字は1, 2, 3, …でなく one, two, three, …で表記する、アンダーラインは使わないことをこころがける、語と語の間隔はシングルスペースとする、行頭だけでなく行末をそろえる、などである。したがって例として、STRATHSPEY FOR MY DEAR MOTHER (S. 32x8, 3C) は、Strathspey for My Dear Mother と表記し、タイトルの下に A 32 bars strathspey for three couples in a four couple longwise set の文を入れるべきであろう。パソコンにはいろいろな英文用フォントがそろっているの、最適なものを選ぶことができる。小節番号のアンダーラインは重苦しいので不要である。

ダンス内容は Tournée、Shiehallion reels、Strathspey poussette などを使ったものもあるが概して素朴である。意外なところもあり、32R ダンスで、bars 1-4 は turn partner with both hands once round というのはその典型。Memories of Scotland の bars 17-24 は日本語版と英語版とで

内容がことなる。RSCDS マニュアルでは Highland schottische は strathspey でやることになっているので、英語版を正とすべきであろう。Set and point と Flora turn はこのグループ固有のフォーメーションなので、踊りかたを詳述したほうがよい。曲はほとんど青山るりさんの作曲で、ほかに小海弘子さんのものもある。青山るりさんによる CD は 2009 年に出版予定とのこと。〔注文略号：るり色日本語版、るり色英語版〕

なおカナダ TAC から 50 周年記念ダンスブックならびに TACNotes 最新版が、RSCDS から Book 20 CD がでたが、本号締切りまで現品未入手のため、来月以降にご紹介する■

以上の商品のご注文は……

郵便振替 00240 - 0 - 63517 東京ブランチ

るり色日本語版 ¥1,500

るり色英語版 ¥1,500

郵便振替払込取扱票の「通信欄」に注文品名・数量・金額をご記入のうえ、ご注文ください。さらなる Fax、おたよりは不要です。

締切り 11月28日(金)

お渡し予定 12月中旬

ショップ担当 鈴木幸子 T/F 045-983-1010